

同窓会 たより



千葉大学看護学部・
看護学研究科同窓会

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 TEL 043-222-7171
ホームページ <http://www.n.chiba-u.jp/dousokai/index.html>

ご挨拶

同窓会会長 岡田 忍 (3期)

記録的な積雪に見舞われた冬が終わりました。すっかり春らしくなりましたが、雪の重みで折れてしまった木々の枝は大雪の記憶をよみがえらせます。冬が厳しかったせいかでしょうか、今年の春の訪れには何か格別のものを感じています。同窓生の皆様はどのような春を迎えられているのでしょうか。

昨年度の医療系のテレビドラマの舞台に医学部の校舎が使われたのにお気づきの方はいらっしゃるでしょうか？経営が厳しく、老朽化した総合病院という設定に大正時代に当時は東洋一の病院として建てられた医学部の校舎がびったりで、ドラマを見た方は大変懐かしく思われたのではないかと思います。

同窓会では、ここ数年学部生に同窓会の存在を意識してもらえようという取り組みについて検討し、昨年度から準会員である学部学生の学術集会参加費に対する助成を始めました。学部生のうちから学術集会に積極的に参加し、研究的な視点を養うことは母校である看護学部・看護学研究科の発展にも寄与するのではないかと考えております。あいにく昨年度は1名のみのお応募でしたが、今年は早い時期から学部生への周知に努め、予算が足りなくなるくらい多くの応募があることを期待しています。この活動をささえているのは皆様からいただいた同窓会費であり、学部生への支援は卒業期を越えて同窓生と母校をつなぐものであると今後ともご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。

昨年の活動方針でも述べましたように、看護学部創立40周年の記念事業に向けた活動がいよいよ今年度から本格的にスタートいたします。記念事業については今後もホームページや同窓会たよりで発信していきたいと思っておりますので、この機会に同期会を開催するなど、多くの同窓生が集う機会になることを期待しております。

最後に、たよりといっしょにお手元に届く個人票の返送についてこの場をお借りしてお願いしたいと思います。名簿の情報に基づくと思われる勧誘などご心配があるかと思いますが、個人票のデータにつきましては信頼できる業者に依頼し、様々な情報漏えいのための保護をかけた上で厳重に管理しております。また、個人票の住所・電話番号は名簿に掲載しないこともできます。個人票の記載内容は、単に卒業生の動向を把握するためのものではなく、母校である看護学部・看護学研究科がどのような人材を輩出してきたのかという記録です。同窓会からのお知らせをお送りする時にも必要なものですので、今年も必ずご返送くださいますようお願いいたします。

同窓会活動のより一層の発展に向けて平成26年度の活動方針として以下の2つを提案します。

平成26年度活動方針：

- ① 準会員の学術集会参加費助成など、準会員に対する支援についてより一層アピールし、在学中から同窓会とのつながりを強化する。
- ② 平成27年度の40周年に向けて10年間の同窓生の動向等を振り返ると共に、記念事業の準備を進める。

ご挨拶

看護学研究科長 宮崎 美砂子

みなさま、お元気で過ごしてはいかがでしょうか。今年は、4月のはじめから気候不順であったせいか亥鼻では十分に桜を楽しむ間もなく、あっという間に新緑の季節を迎えました。千葉大学看護学部の卒業生は、この3月で3,043名となり、大学院看護学研究科の修了生は916名(前期課程683名、後期課程152名、修士課程(看護システム管理学専攻)81名)となりました。みなさまの国内外の様々な場での活躍を大変うれしく、誇らしく感じております。

さて昨年度は、本学部・研究科は、これから10年先を見据え、組織再編の検討に本格的に取り組んだ1年でした。超高齢社会、グローバル社会の到来を踏まえ、議論を重ねた結果、現在の看護学専攻の4講座12分野を、今後3講座7分野に再編する方向性で、たぐいまれ最終段階の調整をしているところです。

また昨年度は、他の国立大学と同様に、文部科学省との意見交換に基づき、ミッションの再定義の作業を行いました。看護系大学が急増する中で、本学部・研究科の特色・強みを活かした役割とは何かを改めて考えました。ミッションの再定義を踏まえ、本学部・研究科は、「看護学の新領域の研究及び先進的教育プログラムの開発により、わが国の看護学の発展をグローバルに牽引する人材を育成する」ことにその存在意義や価値を置き、これからも邁進していきたいと思っております。ミッションの再定義の作業過程で、種々のデータを検討し

たのですが、印象深かった資料の1つに、全国の看護系大学に占める本学卒業生・修了生の割合のデータがありました。各大学が公表している教員名簿と本学部の同窓会名簿とを目視により突き合わせるという原始的な方法に頼らざるを得なかったのですが、事務係長との共同作業により、データを作成したところ、なんと全国の看護系大学の65%に本学部・大学院の卒業生・修了生が1名以上教員として所属していることがわかりました。本学がわが国の看護学の高等教育の推進に大いに貢献している実績が確認でき、その意義と重みを改めて認識しました。

最新ニュースとして、この4月に共同災害看護学専攻が本学研究科に設置され「災害看護グローバルリーダー養成」が始まりました。5年一貫制博士課程で、高知県立大学、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、日本赤十字看護大学と千葉大学の5大学が共同で教育を実施するものです。本学にとっては、看護学専攻、看護システム管理学専攻に続く、3つめの大学院の課程ということになります。共同災害看護学専攻では、複雑な諸問題に対応できる高度な実践能力を備えた新しい博士の養成を行っていきます。

また、昨年から改修工事をしておりました看護学部の管理棟は5月末に工事を完了し、スキルズセンターなどを含む、より充実した教育環境に生まれ変わります。

今後も、同窓会と緊密な連携をもたせていただきながら、ホームページや、各種ご案内等により、情報発信に努めてまいります。引き続き、ご支援をよろしくお願い致します。

平成25年度 総会報告

平成25年6月15日(土)10時30分から、看護学研究科第1講義室にて同窓会総会を開催しました。総会では、会長挨拶の後、運営委員会から平成24年度の入会状況と、平成25年度より大学院入学生も入学手続き時に入会勧誘をしていること、名簿委員会からは、会員データベースの更新のための個人票の返送率は全体で46%であり、今後、評議員を通して返送率を上げることが課題であること、実在の卒業生を騙って名簿を不正に入手しようとする悪質な業者があることが報告され、名簿の販売に関しては個人情報の流出を未然に防ぐ対策として、卒業研究の分野と指導教員の氏名を確認する等の方法をとることが説明されました。また、たより委員会からは、平成25年度のたよりを発行したこと、広報渉外委員会からは、平成24年度同窓会企画「私が千葉大DNAを感じる時」の開催、卒業生及び修了生への記念品贈呈等が報告されました。また、平成24年度の会計監査について報告され、承認されました。

平成25年度の新役員が選出され、平成25年度の活動方針について、岡田会長より、①これまでと同様に、様々な機会に同窓会の存在をアピールし、在学中、卒業後も同窓会とのつながりを感じられるような活動を行う、②その一環として準会員・会員に対する支援の仕組みを確立することが提案され、承認されました。また、運営委員会からは、大学院生も準会員になること等に伴う会則の一部改訂をしていくこと、名簿委員会からは、可能な限り正確な同窓会名簿の管理をしていくこと、たより委員会からは、たよりの発行とホームページへの掲載、広報渉外委員会からは、平成25年度同窓会企画「創設期の看護学部を知ろう！～千葉大学看護学部の過去・現在・未来～」の企画・実施、入学生及び卒業生・修了生への記念品贈呈、ホームページ更新内容の検討等が提案され、承認が得られました。会長より、学部生(準会員)への学術集会参加費の助成について提案があり、審議の結果、平成25年度は1人5,000円を限度とし、40名まで助成することとなりました。さらに、会長より2015年開催予定である同窓会40周年記念行事(案)について説明があり、承認されました。平成25年度の活動予定に対して、平成25年度予算案が審議され、承認されました。

資料1

平成25年度 決算報告

※1 予算との比較(計算式)収入「決算-予算」、支出「予算-決算」、△表記⇒赤字決算、無印⇒黒字決算

正会員の収支				
項目	計	予算	決算	予算との比較※1
収入の部	計	8,478,989	8,463,094	△15,895
1. 会費	計	8,445,489	8,457,094	11,605
1) 繰越金		7,532,989	7,532,898	△91
2) 24年度新入会員終身会費(¥12,000×77名) 内訳: 09N卒業生70名 修了生7名		912,000	924,000	12,000
3) 利子 内訳: 総合口座¥196)		500	196	△304
2. 企画委員会	計	3,500	0	△3,500
1) 記念誌代		3,500	0	△3,500
3. 名簿委員会	計	30,000	6,000	△24,000
1) 名簿代振込(¥3,000×2冊分)		30,000	6,000	△24,000
支出の部	計	8,478,989	8,463,094	15,895
1. 理事会	計	406,000	137,445	268,545
1) 会議費		5,000	0	5,000
2) 交際費 内訳: 弔慰金51,500円、亥鼻祭への寄付50,000円 大学院オープンキャンパス運営補助32,039円 学部学生への支援2,000円		400,000	135,539	264,461
3) 雑費		1,000	1,916	△916
2. 運営委員会	計	53,000	32,021	20,979
1) 会議費(交通費・茶菓子)		21,000	8,258	12,742
2) 郵送費(事務連絡通信費)		15,000	7,040	7,960
3) 人件費(総会アルバイト2名分)		10,000	10,000	0
4) 雑費(コピー用紙代、コピー代、ゴム印)		7,000	6,723	277
3. 名簿委員会	計	323,500	212,389	111,111
1) メンテナンス・データ処理		100,000	126,105	△26,105
2) 個人票関係費(個人票後納郵便代)		210,000	80,614	129,386
3) 雑費(振込手数料、バックナンバー名簿郵送費)		3,000	5,670	△2,670
4) 謝金(個人票確認作業補助1名×4時間)		10,500	0	10,500
4. たより委員会	計	781,000	678,599	102,401
1) 印刷費(たより印刷・発送費、たよりへの同窓会企画チラシ封入代)		780,000	677,759	102,241
2) 雑費(振込手数料)		1,000	840	160
5. 広報・渉外委員会	計	325,500	200,429	125,071
1) ホームページ更新費		45,000	25,987	19,013
2) 会議費(茶菓子代)		13,000	10,088	2,912
3) チラシ印刷代(企画チラシ印刷代、チラシ三折代)		55,000	50,220	4,780
4) 渉外費 内訳: 校友会費50,000円、吉武先生への記念品5,258円 交流会バンド演奏謝金5,000円 卒業式記念品バラ48,576円		200,000	108,834	91,166
5) 人件費		10,500	0	10,500
6) 雑費		2,000	5,300	△3,300
6. 予備費	計	6,589,989	7,202,201	△612,212

平成25年度 千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会の会計監査を実施した結果、収支共に正当であることを認めます。

平成26年4月/日

監査

和佳淑子
小川純子

資料2

平成26年度 予算案

収入の部		計	8,423,901
1. 会費	計		8,390,401
1) 繰越金			7,202,201
2) 新入会員会費(¥12,000×99名分) (内訳) 10N卒業生87名、修了生12名			1,188,000
3) 利子			200
2. 企画	計		3,500
1) 記念誌代(¥3,500×1冊)			3,500
3. 名簿委員会	計		30,000
1) 名簿購入見込(¥3,000×10名)			30,000
支出の部	計		8,423,901
1. 理事会	計		432,000
1) 会議費			5,000
2) 交際費 (内訳) 弔慰金: ¥50,000 亥鼻祭への寄付: ¥50,000 同窓会員と準会員との交流活動援助: ¥40,000 亥鼻キャンパス留学生交流会への寄付: ¥50,000 大学院オープンキャンパス運営補助: ¥35,000 学部学生への支援: ¥200,000 (1件あたり¥5,000×40名見込み)			425,000
3) 雑費			2,000
2. 運営委員会	計		48,000
1) 会議費			21,000
2) 郵送費(評議員への通知文郵送代)			10,000
3) 人件費(総会託児アルバイト謝金¥5,000×2名)			10,000
4) 雑費(振込手数料、文具等)			7,000
3. 名簿委員会	計		336,500
1) メンテナンス・データ処理			120,000
2) 個人票関係費(督促ハガキ印刷発送費、後納郵便代)			200,000
3) 郵送費(バックナンバー名簿郵送代¥350×10冊分)			3,500
4) 謝金(個人票確認作業補助10時間分)			10,500
5) 雑費(振込手数料、文具等)			2,500
4. たより委員会	計		701,000
1) 印刷発送費			700,000
2) 雑費(振込手数料、文具等)			1,000
5. 広報・渉外委員会	計		428,500
1) ホームページ更新費			45,000
2) 会議費			13,000
3) チラシ印刷代 (印刷予定部数3,000部、三つ折料金含む)			51,000
4) 渉外費 (校友会費¥50,000・謝金・卒業式記念品(バラ) 同窓会記念品¥350×300)			305,000
5) 人件費(卒業式記念品準備作業¥1,050×10時間分)			10,500
6) 雑費(振込手数料、文具等)			4,000
6. 予備費	計		6,477,901

Curio(キュリオ) 千葉大学校友会SNSの 入会方法

1. <http://www.chiba-u.ac.jp/sns/>を開き、[入会案内はこちら](#)をクリックし、「Curio」入会申込書(正会員用)より、入会申込書の書式をダウンロードする。
2. 入会申込書に必要事項を記載し、本人であることを確認できる書類(運転免許証、健康保険証など)のコピーとともに、校友会事務局まで郵送かFAXで送る。
<送付先> 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33 FAX 043-284-2550 千葉大学校友会事務局
3. 校友会事務局で正会員の資格を持っていることを確認したうえで、「Curio」への登録を行う。
4. 登録が完了したら、メールで連絡をする。

学術集会参加報告

平成25年度より、学部生の準会員に対して、年1回5,000円を限度に学術集会の参加費を助成することになりました。これは学術集会というアカデミックな場に、少しでも学部生が参加しやすくするためのものです。平成25年度は1名のみ申請でしたが、平成26年度も助成を継続し、多くの学部生が参加できるよう広報に力を入れていく予定です。

【学術集会参加報告】

3年次生 佐伯 幸栄

参加学会：日本災害看護学会 平成25年8月22～23日 札幌コンベンションセンター

災害発生直後のフェーズ1の段階から、現地の石巻赤十字病院の救命センターで看護師長を務められていた方の話や、フェーズ2、3の段階に現地で陣頭指揮を執っていた方々の話を聞くことができたのがとても印象に残った。実際に現場において、何を目標として作業を行ったのか、今回の東日本大震災の避難生活において何か問題として挙げられていたのかを知ることができた。災害直後からでも、残された医療機関が医療機関としての機能を発揮していくためには、日ごろからの地域住民、役所とのつながり、地元の薬局等様々な機関との協力があったことである。しかし、一方で不衛生な避難所での高齢者や幼児などの社会的弱者になるものへの待遇。施設内での寝たきり高齢者の増加など、人としての尊厳が失われた状況であった。

今回の震災の学びを生かして、災害に強い街づくりやコミュニティの構築は必要不可欠であるが、それに加えてたとえどのような状況下であっても人が人らしく暮らせる生活を守る仕組みの必要性を強く感じた。

2013年度 亥鼻祭のご報告とお知らせ

2013年度亥鼻祭実行委員会副委員長 看護学部4年 山内 優子

2013年11月2、3日、千葉大学亥鼻キャンパスにて第11回亥鼻祭を無事に執り行うことが出来ました。今回は1日目があいにくの雨空でしたが、2日目は晴天に恵まれ、昨年度から導入したアドバルーンの影響効果もあって2,000名以上の方にご来場いただきました。ご来場くださった皆様に深く感謝申し上げます。

今年度のテーマ「wi11」には、10周年という節目をこえて亥鼻祭を未来につなげていこう、また強い意志をもって11周年の亥鼻祭をつくりあげようという思いをこめました。

開催につきましては、同窓会の皆様をはじめたいへん多くの方から、あたたかい応援のお言葉やアドバイス、寄付金をいただき、私たちの活動をご支援いただきましたこと、心から感謝いたします。

私は、看護学部副委員長として亥鼻祭に関わることによって、同じ目標に向かって一致団結して努力することの素晴らしさを学び、亥鼻祭によって学生どうしだけでなく先生方や地域の方とも繋がることを実感いたしました。

皆様のお力を借りながら、これからも長く愛される大学祭となるように活動してまいります。

2014年度の実行委員会も始動いたしました。今年度を含めまして、これからも亥鼻祭をよりよい活動にしていけるために、皆様にご寄付をお願いしたいと考えております。ご協力、ご支援いただければ幸いです。寄付金は一口5,000円で何口でも結構でございます。下記の口座番号まで、郵便振込でお願いいたします。

(口座番号 00160-5-480746

千葉大学亥鼻祭実行委員会)



平成25年度 同窓会企画報告

創設期の看護学部を知ろう！ ～千葉大学看護学部の過去・現在・未来～



開催概要

日時：平成25年6月15日（土）
13：00～15：00

場所：千葉大学看護学部 講義・実習室

企画内容

千葉大学看護学部の卒業生が35期となりましたので、これを機会に、創設期の千葉大学看護学部の様子や今後の看護学部・看護学研究科の展望について語り合いたいと思ひ企画しました。

今年の同窓会企画には、小児看護学の初代教授で第6代学部長を務められ、現在は千葉大学看護学部名誉教授でもある吉武佳代子先生がお見えになりました。創設当初の授業や実習風景等が記された懐かしい映像も見て、卒業期一桁から卒業1年目までの卒業期を越えた縦横の交流を深めることができました。

参加者からの声

- ・楽しかったです。時間が短く感じました。もっと多くの方と交流したかったです。縦のつながりを感じられてうれしかったです。
- ・卒業したばかりでしたが、色々な先生に会えて、吉武先生のようなすばらしい先生のお話しが聞けて、本当に楽しくためになりました。ありがとうございました。
- ・新旧交流ができてよかったです。VTRがとても懐かしかったです。
- ・吉武先生の教育に対する思い、学生への温かみのある思いに触れて励まされました。

ご意見&今後取り上げてほしいテーマなど

- ・ワークライフバランスをとりながら活躍している卒業生のシンポジウム、交流を含めてほしい。
- ・みんながどのようにキャリア形成をしているのか話を聞きたい。
- ・懐かしい先生のお話をうかがえる企画。

皆様のご意見を参考に、今後もよりよい企画を運営致します。平成26年度もお楽しみに！！
企画に参加して下さった皆様、当日運営にご協力くださった皆様に厚く改めて御礼申し上げます。

平成24年度広報渉外委員一同

委員長：石丸美奈（12期） 副委員長：屋久裕介（31期） 委員：石橋みゆき（14期）、時田礼子（21期）、山下亮子（22期）、鈴木久美（25期）、鈴木悟子（28期）、渡邊賢治（30期）、橋内伸介（32期）

平成26年度同窓会企画案内

次回のテーマは、千葉大保助看法を読み解く～千葉大出身3職種のキャリア形成～です。
7月5日（土）13:00～15:00に予定しています。詳細は同封したチラシをご覧ください。
たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

災害看護グローバルリーダー養成プログラム

共同災害看護学専攻 特任講師 駒形 朋子

まずは東日本大震災で被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

近年、これまでになかった災害が、これまでになかった形で発生するようになり、より身近な脅威と感じられている方も少なくないと思います。これまでも、多くの看護師が被災地へ赴いて看護を実践し、今もなお復興に向けて幅広く活動しています。しかし、複雑化、多様化、そして長期化した事態の中で、多くの重要な課題も浮き彫りとなりました。それは災害に立ち向かうには、分野を横断した問題が多く、情報や資源も限られる中で全体を見渡し、様々な職種と協働しながらの最適な意思決定が必要ですが、そのようなリーダーシップを発揮できる人材が不在だったことです。

本プログラムでは、世界で求められている災害看護の課題に的確に対応・解決し、学際的・国際的指導力を発揮し、人々の健康社会構築と安全・安心・自立に寄与する「災害看護グローバルリーダー」を養成します。日本の看護学高等教育・研究を牽引してきた5大学（千葉大学、高知県立大学、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、日赤看護大学）

がそれぞれの蓄積と強みを生かし、平成26年4月に国内初の国公私立共同、5年一貫性博士課程を開講しました。千葉大学は災害後中長期の「人々が日常生活を取り戻すための支援」に活躍できる人材の養成に取り組めます。患者さんに寄り添うように丁寧に、住民の視点から問題をとらえ、看護職のコミュニケーション力や調整力を生かして復興に関わる多分野の人々と連携協働し、最善の解決策を探求することのできる、力強く確実な災害看護グローバルリーダーの育成を目指します。



同窓生の皆様にも応援いただけますよう、どうぞよろしくお願いたします。随時情報を更新しておりますので、ホームページもご覧ください。

<http://www.n.chiba-u.jp/dngl/index.html>

震災後に被災地に暮らしてみても

公立志津川病院 看護師 雑賀 祐子 (22期)

私は青年海外協力隊看護師隊員として赴任したパラグアイから、2011年1月に帰国しました。3月11日に東日本大震災が起きた時には、無職で自由がききました。ボランティア登録がきっかけで、日本に支援に来たイスラエル医療チームに日本側の看護師として同行することになり、宮城県南三陸町で3月28日から2週間、医療調整業務を行いました。私にとって大変困難な業務で、終わった時には達成したかはよくわからないけれど、やりきった感を得ていました。

2011年の夏ころから次の進路について悩みました。人づてに、気仙沼の被災した病院で看護師を募集していると聞いたので見学に行きました。すると、看護師のみなさんがあまりに疲れた様子だったので、頭数を増やすだけでも助けになればと、1年のつもりで10月から就職しました。最初の1ヶ月は外来でしたが、職場でのお昼休憩の話題はいつも震災、津波の話でした。11月から病棟に移って、そこでの話題は患者さんのことなども混じるようになっていきました。患

者さんの中には、こちらから問わなくても津波の体験を繰り返し語る方が何人もいました。

気仙沼で1年がたったころ次の就職活動をしていたのですが、最初に縁のあった南三陸町の病院からお声掛けを頂いたもので、そちらに転職しました。津波で建物が全壊した志津川病院は、入院施設を隣の登米市内の閉鎖になった病院の病棟を借りて行っています。外来と病棟が車で40分以上離れていることとなります。それによる不便と損失は、新病院が町内に建つまでとの思いでみな頑張っています。

私の気仙沼の時の住居は、津波浸水地区にぽつんと一つ残った集合住宅の1階でした。リフォーム直後で綺麗な部屋でしたが、地震があるたびに津波が気にかかり、ハラハラしました。転職に伴い内陸の登米市内に住むようになると、大きな地震があっても「でも絶対津波は来ない」という安心をまず感じます。津波で何もなくなったいわゆる“被災地”を日々目にしなくて済むようになり、心の痛みが減った気がします。

というより、“被災地”を毎日目にしていたことで心に負荷がかかっていたことに気づきました。居場所でのこの様に心境が変化することを、体験して知りました。人によって感じ方はそれぞれでしょう。しかしこのことを今の周りの人達と話し合っていないと思います。被災した方々は自分の街が壊滅してしまって、今の状況があります。そこで、被災地を離れて安心した、という私の心境



は安易には言えないことだと、無意識にブレーキがかかるようです。このような、目には見えない、そしてうまく説明するのも難しく、相手を慮ると一層話せなくなる種の心のつかかりや開放が、まだ存在している気がします。

ここでは、震災といえば津波の話です。気仙沼では火事のことを話す人も少数いましたが、地震の揺れ自体のことを話

した人には会ったことがありません。

宮城で過ごして2年半、気仙沼弁、志津川弁も習得しつつあると自負してきたこの頃ですが、4月から共同災害看護学専攻課程に進学するため千葉大学に戻る予定です。きっかけは震災でしたが、たくさんの出会いと再会があったことに感謝しています。

東日本大震災支援活動を通して、看護職だからこそできること

千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程 吉田 絵里 (28期)

同窓生の皆様、こんにちは。28期生の吉田絵里と申します。私は現在、地域看護学教育研究分野 博士前期課程に所属しています。大学院に進学することになったのは、2011年3月11日東日本大震災がきっかけでした。

都内大学病院を退職後、2011年10月から2013年3月まで、医療支援団体の看護スタッフとして、宮城県石巻市で被災者の健康支援活動に従事しました。私が活動を開始した時期は、ちょうど避難所から仮設住宅への移行期でした。

震災以前は、漁や畑仕事をしていた人、近くにお茶のみ友達がいた人…。生活の中で自然と培ってきた役割や楽しみが突然奪われ、意欲を失い、自宅にこもりがちな高齢者。そういった人々の“集まる場”として、仮設住宅の集会所を利用して健康相談会を実施しました。このような“場”をきっかけに『次は自分たちで』と、自主的にラジオ体操をするようになりました。震災で“当たり前”にあった日常が破綻してしまった人々にとって、毎日同じ時間に「おはようさん。」と挨拶ができることの幸せ。そういった日課を自分たちで作りながら、「今日はあそこのばーさんが出て来てないね、帰りにちょっと見てくっから。」と住民同士が気遣い合う姿。時間の変化や空間を共にすることで、人々が支え合いながら自分自身の力で立ち上がっていく強さを学びました。

また、高齢者や精神面が不安定な住民等に対して、健康状態の確認のため訪問活動をしました。目の前で、奥様が流されてしまった70代の方。繰り返し訪問し関係性を作る内に、次第に、妻を救えなかった自責の念や、独居の不安などを話してくださいました。私は、ただ話を聞くことしかできない自分に、無力感を感じることもありました。しかし、震災から2年が経過した頃、「(自分は)元々、すごく傲慢な人間だった。でも今は、色んな人に感謝していて。津波で、かーちゃんはいなくなっちゃたけど、こうやって吉田さんとも出会えたから…。津波にあって良かったのかなって思うよ。」と。それを聞いて、寄り添い、支え続けることの大切さを身に染みて感じました。

震災後、4年目。復興住宅の申し込みも開始し、悲しみや不安を抱えながらも、折り合いをつけながら“今”を生きています。しかし「今が一番辛い。」と言う人もいます。特に、復興の中心的な存在の人や、生計のため働き続けている壮年期の人々は、3年間ずっと気持ちが張りつめた状態で走り続けています。「寝ても疲れがとれない」「この頃、血圧が高い」と体の不調をきっかけに、「実は…」と、立場上、家族や他の住民には見せられない辛さを表出することがあります。看護職は、専門的な立場を活かしながら、その人自身に近づき寄り添うことができる存在です。今後、中長期的に人々の生活や健康を支えるため、看護職の専門性がよりいっそう必要とされると思います。

私は、この震災をテーマに修士論文に取り組みながら、現在もボランティア活動を継続しています。東北には、塩害にも負けずに咲く花々や、誇りの詰まった海の幸、温かく強い人々との出会いがあります。一人でも多くの看護職の方に、実際に足を運んで“生きる”ということを感じ、“生きることを支える”ということを考えていただけたら、と思います。



管理棟がリニューアルします！

昨年より改修工事を行っていた管理棟ですが、このたびようやく完成し、5月末に引っ越しをすることとなりました。新しい管理棟では、基礎看護実習室がスタンダードスキルズラボと名称を変え、さらに、エキスパートスキルズラボという、高度看護実践に必要な看護技術を習得するための新しい実習室も誕生します。詳細は、次回のたよりにてお知らせしますので、楽しみに。



個人票の返送と記入について



個人票の返送のお願い

個人票はすべての会員の方が返送してください。

個人票は、同窓会からのあらゆる連絡（たよりの発行、名簿の発送など）のための住所のもととなります。さらに、皆様から返送された個人票の情報を元に、看護学部卒業生の現在の就業状況を統計的に把握しています。これは、看護学部卒業生の現在の活動状況を知る重要かつ唯一の資料となっております。住所変更をしていなくても、個人票の返送による会員データ管理は、毎年継続しておりますので必ず返送して下さるようお願い申し上げます。

今年3月に卒業された方々も、住所に変更がなくても必ずご返送ください。

皆さまご多用のところとは存じますが、何卒ご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

ご注意ください。

同窓会では、皆さまから集めた個人情報は厳重に保管し、こちらから個人情報が流出することは一切ありません。皆さまのお手元にある名簿の管理については充分にご注意いただきますようお願いいたします。古くなった名簿を破棄する場合には裁断（シュレツダ）するなどしてデータが万が一にも流出しないよう管理の徹底をお願いいたします。

個人票記入の手引き

- ☆ ご自分の個人票データについて、変更・訂正のある場合は、左側の変更・訂正事項記入欄に修正内容をご記入ください。変更・訂正をご記入された方は、同封の個人情報保護シールを上貼して、情報をカバーし、ご返送ください。
- ☆ 勤務形態、設置主体、職種、職位は下記のコード表（コード表は、個人票の左側にもあります）から番号を選択し数字を記入してください。該当するものがない場合には、具体的に記してください。
- ☆ 現住所で連絡が取れないのために、帰省先の住所をお尋ねしております。
- ☆ 勤務状況については、現在就業している方は「有」に、就業していない方は「無」に○をつけてください。
- ☆ 現在学生の方は最終学歴の「学校名」の欄に学校名を記し、(在学中)とお書きください。勤務を続けたまま学生をされている方(科目等履修も含む)は、勤務状況と学校名の両方のご記入をお願いいたします。
- ☆ 近況報告について、ご記入いただいてもたよりに掲載を希望されない方は、右のチェック欄にチェックしてください。

[コード表]

- 勤務形態：1. 正職員 2. 臨時職員（非常勤、パートタイマーなど） 3. 休暇・休業中
設置主体：1. 国立大学法人 2. 都道府県 3. 市町村 4. 公益団体 5. 学校法人 6. 医療法人
7. 個人 8. 会社
職 種：1. 看護師 2. 保健師 3. 助産師 4. 養護教諭 5. 看護教育職 6. 研究職
7. 一般職（看護職以外）
職 位：1. 非管理職：一般看護職員、一般専任教員、助手など 2. 中間管理職：主任、市町村等の係長、准教授、講師、助教など 3. 管理職：師長、教務主任、市町村等の課長、教授など
4. 看護部長、副看護部長、学部長、研究科長など

個人票返送の締め切り

平成26年6月末日までに返送してください。

名簿購入のご案内

「平成24年度会員名簿」の購入をご希望の方は、下記の通り申し込んでください。

1. 名簿購入希望について、同窓会名簿委員長に申し込む。連絡先：043-226-2452(看護学部学務係) その際、同窓会会員であることがわかるよう、氏名、学籍番号をご連絡ください。もしくは、直接千葉大学看護学部同窓会までお出でください。
2. 同窓会会員であることが確認できた後、購入手続きをとらせていただきます。
3. 名簿の代金について 名簿は1冊**3,000円**です。 **代金の入金を確認後**、発送いたします。
4. せっかく代金を振り込まれても、以下の場合には寄附金として処理されますので、ご注意ください。複数冊の名簿代を振り込まれた場合；名簿の購入は**お一人一冊**に限られています。

平成26年度 千葉大学大学院看護学研究科 教員紹介

専攻	講座	教育研究分野等	教授	准教授	講師	助教・助手	特任等
看護学	基礎看護学	基礎看護学	山本 利江			永田亜希子	
		看護教育学	舟島なをみ	中山登志子			(技術職員) 小川 和代 (技術補佐員) 望月美知代
		機能・代謝学	小宮山政敏	田中 裕二		藤田 水穂	
		病態学	岡田 忍		小川 俊子		(技術専門職員) 西尾 淳子
	母子看護学	母性看護学	森 恵美	坂上 明子		小澤 治美 青木 恭子 愛甲 麻衣	
		小児看護学	中村 伸枝		佐藤 奈保	仲井 あや 金丸 友	
	成人・老人看護学	成人看護学	眞嶋 朋子	増島麻里子		渡邊 美和 楠 潤子	
		老人看護学	正木 治恵	石橋みゆき		高橋 良幸 田所 良之	(特任研究員) 林 弥江
		精神看護学	岩崎 弥生		野崎 章子	阿部 玲子	
	地域看護学	地域看護学	宮崎美砂子	石丸 美奈		飯野 理恵 時田 礼子	
		訪問看護学	諏訪さゆり		辻村真由子	島村 敦子	
		保健学	北池 正		池崎 澄江		
	災害看護学	災害看護学	岩崎 弥生 (特任) 神藤 猛	(特任) 望月 由紀	(特任) 駒形 朋子	(特任) 白井いつみ	
看護システム管理学	病院看護システム管理学	手島 恵					
	地域看護システム管理学	吉本 照子	杉田由加里				
	ケア施設看護システム管理学	酒井 郁子			黒河内仙奈		
附属看護実践研究指導センター	ケア開発研究部	野地 有子	黒田久美子	赤沼 智子			
	政策・教育開発研究部	和住 淑子	錢 淑君	今村恵美子			

外部資金等講座	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	特任研究員
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン		長坂 育代			
エンドオブライフケア看護学（日本財団）	長江 弘子			関本 仁	池本 典子
認定看護師教育課程（乳がん看護分野）		阿部 恭子		井関 千裕	
組織変革型看護職育成支援プログラム				若杉 歩	
F Dマザーマップ開発				鈴木 友子	
専門職連携F Dプロジェクト			小河 祥子	高橋 平徳	
文化看護国際共同研究センター		(望月 由紀)			

※ 下線は正会員

平成26年度 千葉大学大学院看護学研究科説明会案内
— 博士前期・後期課程及び修士課程対象 —

日時：平成26年6月21日(土) 集合時間12:50 開催時間13:00

場所：千葉大学看護学部 講義・実習室

- 内容：(1) 看護学研究科の概要と特色 (4) 大学院生からのメッセージ
(2) 各教育研究分野等教授紹介 (5) 専攻別質問コーナー、大学院生との交流
(3) カリキュラムの説明

お問い合わせ・お申し込み先： 〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 看護学部学務係 大学院担当
TEL 043-226-2450 FAX 043-226-2382 E-mail : tae5667@office.chiba-u.jp
千葉大学看護学部ホームページ : <http://www.n.chiba-u.jp/>

参加を希望される方は、平成26年6月13日(金)17:00までに、お名前・ご住所・電話番号・E-mail・決定していれば志望教育研究分野を記載し、「大学院説明会参加希望」と明記の上、ハガキ、FAX、E-mail等でお申し込みください。